

**地域防災減災センター2020 年度
信州における防災減災に関する支援プロジェクト
成果報告書**

(令和3年4月30日)

〔1〕 報告者情報			
フリガナ	ヒロウチ ダイスケ		所属部局 職 名
研究者氏名 (代表者)	廣内 大助		
研究プロジェクト名	令和元年台風 19 号による千曲川水害被災地域における住民の災害対応とその差異の解明		

〔2〕 研究概要・成果
<p>1. 研究概要 本研究の目的は、令和元年台風 19 号による千曲川水害被災地域における住民の防災意識および水害対応について、地域を比較しながら明らかにすることである。長野市豊野地区および浅野地区の住民に対してアンケート調査およびインタビュー調査を実施し、居住歴、過去の被災経験などによって住民を分類し、住民の防災意識などについて比較した。</p> <p>2. 調査地域と令和元年台風 19 号による水害の概要 調査対象地域である長野地豊野地区、浅川地区は、ともに水害常襲地域である。令和元年台風 19 号では、千曲川の越水に加え、浅川が逆流したことによる氾濫が発生し、豊野地区においては南側に位置する東町、南町で甚大な被害が発生した。また昭和 57 年、58 年にも浅川の氾濫による水害が発生している。一方、浅野地区では今回の台風 19 号によって大きな被害は発生しなかったものの、平成 7 年に鳥居川の氾濫による水害による被害が発生している。</p> <p>3. 防災意識の地域比較 ハザードマップによる浸水想定の有無、過去の水害による被災経験、台風 19 号による浸水範囲、居住地の地形によって住民を分類し、防災意識について比較した結果、以下の結果が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊野地区と浅野地区の避難した住民の割合は、豊野地区 84%、浅野地区 62%となり、豊野地区の方が高かった。 ・ 避難した世帯をハザードマップ上の浸水想定の有無と被災経験の有無別に見てみると、浸水想定のみ有る住民に比べて、被災経験のみ有る住民の方が避難をしている。 ・ 地形分類上では同じでも浸水想定や被災経験の有無別で住民の防災意識は異なる。 ・ 豊野地区、浅野地区どちらにおいても、被災経験がない住民と比較して被災経験のある住民の方がハザードマップの閲覧や、防災グッズの準備などの面で防災意識が高かった。 <p>4. 考察 浅野地区において、平成 7 年鳥居川水害を経験していない住民は、浸水想定地域であっても今回避難を行わなかった割合が高かった。避難しなかった住民にその要因を尋ねたところ、これまでに被害に遭ったことがない、被害に遭うとは思わなかったとの回答が多かった。このことから、浸水しやすい土地に居住している住民のなかでも、被災経験の有無によって防災意識に差があることが明らかになった。</p> <p>ハザードマップ上で浸水想定がされていても、被災経験がない住民はどのような準備を行えばよいか把握しておらず、自分自身が被害に遭う可能性は低いと考えており、防災意識の向上が求められる。</p>